



後学期を迎える 1年次生へのメッセージ

理事・副学長(教育統括) おお た ひろ ゆき
太田寛行



大学でしか出来ないことが少なくとも3つあると思う。1つ目は、知の開拓や応用を行っている現場に参画できることだ。今の君たちはその準備期間にいると言える。2つ目は、自分の将来に向けて様々な準備や体験が出来ることであろう。社会に出て進もうとしている分野の知識の獲得だけでなく、地域参画プロジェクトやインターンシップなどを通して社会人と接することが出来るのも大学ならではの事だ。3つ目は、地域や国の違いや、背景の違いを越えて多様な人たちと出会えて議論できることだ。さて、後学期を迎えて、もう一度、何をしてきて、何をしてこなかったかを確かめる時かもしれない。学びという点からすれば、何を知り、まだ何を知らないかであろう。それを確かめる方法は難しいことではない。いつもよりも話題を社会化したり、文学や芸術などの話題を選んで、友や先輩、後輩、家族、さらに先生と議論してみる事だ。知らないことを知ったり、考えの浅さを知る羽目になれば儲けもの、それが自分を磨くことにつながるはずである。

本学は学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を定めて大学のHP等で公開している。これは教職員の教育宣言とも言える。そこには5つの要素(知識や能力)を掲

げてある。私たちは、それらを育むことによって、君たちが地域から世界にわたって広がる文化の多様性やダイバーシティの観点を理解し、異なる国や地域

の社会に属していても共通の倫理観や価値観を見出し、多様な人々と協調して働く姿を思い描いている。21世紀の社会がこれから先大きく揺れ動いても、自立して逞しく生きる姿を想像している。

最後に一言加えたい。それは、7月26日に起きた相模原殺傷事件のことだ。事件は単に悲しいだけでなく教育に関わる者にとっては大きな課題を突きつけられた。社会の成熟とともに培われてきた、人間社会での多様性に対する理解が打ち砕かれたのだ。その無理解や理不尽さは世界で起きているテロ事件にも通じる。私は人間の寛容さの向上を信じたい。これからの21世紀社会で、その成否は君たちの力にかかっていると思う。

ローザ・プルムラ 第53号

大学教育センター ニュースレター
平成28年10月発行



このニュースレターのタイトルはラテン語で「Rosa Plumula」。「薔薇の若芽」を意味します。茨城大学の校章はノイバラ(Rosa Multiflora)。春から初夏にかけてすくすく成長するノイバラの若枝の勢いを、本学に入学された1年次諸君に期待して命名しました。(2002年4月、谷口晋・初代大学教育研究開発センター長)

もくじ

後学期を迎える1年次生へのメッセージ	1
授業は学生と教員とで創っていくもの／ラーニングcommons OPEN!!	2
平成27年度 推奨授業表彰	3
学生懇談会 学長と語ろう!	4
平成27年度 大学教育センター長表彰	5
大学教育センターの基礎教育	6~7
後学期を迎えるにあたって(先輩からのひとこと)	8
●工学部マテリアル工学科4年 杉山 直希	
●農学部生物生産科学科4年 佐藤 祐椰	

授業は学生と教員とで創っていくもの



きむら きそう
全学教育機構長 **木村 競**

前学期の終わりに授業アンケートに答えたことと思います。教養科目では全ての授業科目で学生アンケートを実施しています。

さて、この授業アンケートは何のために行っているのでしょうか？

飲食店についての「ぐるなび」のように、それぞれの授業を受けている学生が「採点」をするのだと思った人もいるかもしれませんが、そうではないのです。学生アンケートの結果は教員に伝えられ、教員自身も自己点検を行い、この二つをもとにして個々の授業や教養科目を見直します。つまり、学生アンケートは充実した授業を創っていくために行われているのです。学生アンケートと教員の自己点検の結果はWEBで公表されていますから (<http://www.cue.ibaraki.ac.jp/activity/anketo>)、学生はそれを見てさらに意見を述べることもできます。

大学の授業は教員が教え、学生は教えられるという一方向のものではなく、学生と教員とで力を合わせて創っていくものです。授業アンケートもその一つの手段ですが、もっとも重要な機会は一回一回の授業です。教員と学生のやり取り、学生同士の意見交換、学生の自修への教員の支援、こういったことが一体となって、そこに新しい知が創られていきます。このことはアクティブ・ラーニングの重要なねらいでもあります。

こんなことを聞くと、何だか面倒だなと思う人もいるでしょう。でもそれは、高校生までは知識や情報の受け手、もっと言えば消費者でしかなかったからでしょう。しかし、社会に出れば自分が知識や情報の送り手となり、生産者になります。ぜひ、大学生のうちに、立場の違う、意見の違う人たちが協力しながら知恵や知識を創り出す経験をたくさん積んで下さい。慣れてくれば、とても楽しいことですから！

ラーニング コモンズ OPEN!!

ホワイトボードや
プロジェクターを使った
グループ学習や
打ち合わせに最適

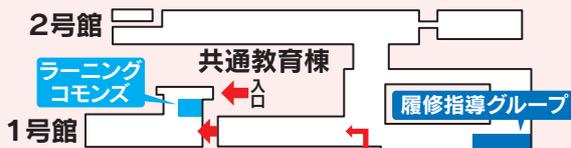
フタ付きドリンクの
持ち込みOK



Information

ラーニングコモンズをご利用ください。
使い方は、掲示板をご覧ください。

開室時間 平日8:30~17:00
場所 共通教育棟1号館1階100番教室
(教科書販売所 だったところ)



問合先 学務課履修指導グループ(共通教育棟1号館1階)



平成27年度 推奨授業表彰

推奨授業表彰制度は、各年度終了後、教養科目の中から推奨授業を選定し、担当教員を表彰することによって、授業の質的向上を図ることを目的に、平成13年に制定されました。

推奨授業は、専任教員が担当する全ての正課授業を対象とし、「推奨授業推薦書」、「学生による授業評価」、「当該授業の成績評価」、「シラバス」などから教育上の創意工夫や教育技術等を総合的に評価し、各専門部会長の推薦に基づき、大学教育センター基礎教育運営委員会で選定されます。平成27年度推奨授業には、2つの授業が選定され、その表彰式が、7月6日(水)に学長室において実施されました。

なお、これらの授業は、授業改善の参考として広く学内に公開されました。



▲表彰式での記念撮影
(左から三村学長、後藤教授、鈴木教授、栗原大学教育センター長)

社会系基礎教育専門部会推薦 社会と経済(現代経済入門)

担当教員 後藤 玲子(人文学部 教授)



後藤教授「社会と経済」公開授業

推奨授業を受賞して

この度は思いがけず栄えある賞を頂き、大変嬉しく、また身が引き締まる思いです。本授業は、現代社会の諸問題について、社会科学の方法論と経済学の概念を用いて考察する力を養うことを目標としています。昨年度は「豊かさや貧困」をテーマとし、日本における子どもの貧困や発展途上国における絶対的貧困の問題を取り上げました。授業実施上で留意していることは、1)社会問題を自分事として捉えられるよう促すこと、2)多くの学生が持つ「社会科=事柄の暗記科目」という図式を崩すことです。1)については、授業で扱った社会問題について「社会は何をすべきか」、「自分には何ができるか」を考えて書く機会を複数設け、都度次回の授業でアイデアを共有すると共に、より深く考えるための文献や活動等をできるだけ具体的に紹介しました。2)については、一定の方法論や概念を異なる社会問題の解説に繰り返し用いることで、知識を応用する力こそが大事という理解を促しました。今回の受賞は、唯一解のない問いに真剣に向き合ってくれた学生たちと、いつも温かく支えて下さる職員の皆様のおかげです。本当に有難うございました。

情報基礎教育専門部会推薦 情報処理概論(情報リテラシー)

担当教員 鈴木 栄幸(人文学部 教授)



鈴木教授「情報処理概論」公開授業

推奨授業を受賞して

本授業は、大学における学習や卒業研究、社会に出てからの様々な場面においてICTを活用し、情報の収集・表現・創造等に関わることを目標として実施しています。留意していることは、第一に、この授業が教育機関でまとまった時間を取ってなされる最後の情報教育であるということです。そのため、必要な知識やスキルに取りこぼしがないように丁寧に進めています。また、受講後、学生達が新規のソフトや機器に触れていくことを考慮し、自分でマニュアルを読みながら操作するような活動も取り入れています。第二に、この授業を受けるのが新入生だということです。彼らが、この授業の中で交流し仲良くなれるように、自己紹介/出身地紹介記事を作成し互いに見せ合う等の活動を取り入れています。第三に、アクティブラーニングです。手や身体が動いていればアクティブということではありません。学習している内容を使って何かを伝えたり、人のために働いたりする時に初めて学習はアクティブになります。教室という制約の中ではありますが、そのような課題を用意するようにしています。まだ至らぬ部分も多いと思いますので、今後も、授業の改善に努めたいと考えています。

学生懇談会 学長と語ろう!

(大学改革キャッチフレーズ)

つぎの茨城大学へ

地域に根ざし、

世界へ挑戦する大学



平成28年6月29日(水)に学生懇談会を開催しました。

本懇談会は、平成26年度から三村信男学長を迎えて、学生に密接に関わるテーマについて学長と学生が直接意見を交換する形で行っているものです。今回は「本学の改革の目標や取組みが入学志願者にどのように伝わっているか」、「授業や大学の取組みを学生がどのように受け止めているか」を把握する機会として、新入生を対象に開催し、全5学部から計48名が参加しました。

まず、学生生活で感じている不便なことや授業を受講した感想、グローバル化や留学に対する関心、大学改革キャッチフレーズの印象等についてクリッカーを使ってアンケートを実施し、その結果をもとに学長と学生が意見を交わしました。

学生からは施設整備に関する要望のほかに「地域志向系科目を受講して、地域の見方が養われた」といった授業についての感想もあり、当該

授業の目的が学生に理解されていることが実感できました。また、国際化への取り組みに関連して「必修科目との兼ね合いで長期留学することが難しい」との意見に対しては、三村学長から「次年度よりクォーター制を導入し、なるべく必修科目を開講しない『空きクォーター』を設けるように学年暦を見直している」との説明がありました。

三村学長は、懇談会を振り返り、予想以上に学生が授業や施設などについて自身の考えを持っていたことに触れ、社会の要求にあわせて大学が変化していく中で、学生の意見を参考にしながら改革を進めたいと意欲を語りました。

大学教育センターでは、懇談会中に出された意見を参考にして、学修環境や教育の質の向上に繋げられるよう努めます。また、本センター独自では対応できない点については、担当する部局等へ改善を働きかけていきます。



学生さんと意見交換する三村学長

<この懇談会を実施して改善された例をお知らせします。>

「茨大なんでも相談室」(共通教育棟1号館1階)に向かう廊下が暗く、気軽に相談できるような雰囲気でないとの意見をいただきました。そこで、「茨大なんでも相談室」前の廊下壁面を塗り直し、照明も交換して明るくしました。

予算の都合もありますが、学生さんからの意見を参考に、できるところから改善していきたいと思っています。

学生懇談会の報告書は、
大学教育センターHPより閲覧ができます。

アドレスは、
<http://www.cue.ibaraki.ac.jp/node/386>

平成27年度 大学教育センター長表彰

大学教育センター長表彰制度は、入学した年度の1年次中に教養科目の所定の単位を修得し、教養科目の通算GPAが3.0以上の学生で、その値が、各学部において最上位の者(工学部については、Aコース及びBコースのそれぞれにおいて最上位の者)を表彰するもので、学生の学修意欲の増進と、GPA制度の認知度を高めることを意図としています。今回の表彰対象者は、現2年次生の平成27年入学者で制度化して初めての受賞者になりました。表彰式は、6月25日(土)に実施し、栗原大学教育センター長から受賞者6名に表彰状と副賞が授与されました。

表彰式後の懇談会において、栗原大学教育センター長から「教養科目で優れた成績につながった背景」について質問したところ、受賞者から「2年次からは専門科目が中心となるため、他分野の教養教育を学べるのは1年次のときだと考え積極的に取り組んだ」、「あえて専門外の関心の強い教養科目を履修することで、興味をもって学修することができた」との発言がありました。これらの発言について、栗原大学教育センター長から、「教養教育への強い関心と高い学修意欲に感心した」と述べられ受賞者を称えました。



栗原大学教育センター長から表彰状を受ける成績優秀者



受賞者の皆さんと栗原大学教育センター(左端)及び小口副センター長(右端)



懇談会の様子



平成27年度 大学教育センター長表彰 受賞者

人文学部	森 みなみ
教育学部	佐藤 響
理学部	宗像 祐介
工学部(Aコース)	上野 瑛永
工学部(Bコース)	田中 智翔良
農学部	高間 梨央



大学教育センターの基礎教育

総合英語プログラム

総合英語プログラムって何だろう？

皆さんは、前学期に週2回「総合英語」という授業を受講しました。また、後学期も総合英語を受講します。そもそも「総合英語」って何でしょう？

総合英語とは、英語を「読む」「書く」「聞く」「話す」ことができるようになることを目標とした英語教育プログラムのことです。英語のレベルは人それぞれなので、それぞれのレベルに応じたクラスからスタートし、徐々にレベルが上がっていくシステムとなっています。そのため、前学期でプレレベル3の単位を修得した学生は後学期でレベル3の授業を、前学期でレベル3の単位を修得した学生は後学期でレベル4か学術英語を、レベル4の単位を修得した学生はレベル5か学術英語を履修することになります。それぞれのレベルは、「ヨーロッパ共通参照レベル(CEFR)」という国際的な基準に沿って学習内容が設定されていて、学期末にはTOEIC®を受験することで就職の際に必要な英語力を知ることができるようになっています。皆さんが後学期に受講する総合英語は、前学期に履修したプログラムの継続です。後学期も頑張ってください！

英語学習相談



総合英語の自主学習の仕方を教えて！
留学のためにはどんな学習をすればいいの？
英語でのコミュニケーションを上達させたい！

など、英語に関する悩み・相談に本学教員をはじめ、ネイティブスピーカーがお応えします。

英語スピーキングトレーニング～「Speak Up!」～

Speak Up! では、茨城大学の学生の、英語のリスニング・スピーキング力を養うサポートを行っています。英語の授業に関する質問だけでなく、日常英会話や発音練習、更に一步踏み込んだ議論のトレーニングなど、個々のニーズに合わせてゲームやディスカッションを通じて練習することができる場所です。定員は、1回のセッション(20分)2～3名まで。予約不要ですので、お気軽にお越しください。

開催予定日 次の火曜日 10/25, 11/1, 11/8, 11/15, 11/22, 11/29, 12/6, 12/13, 12/20, 1/17

場所 共通教育棟1号館218室 **時間** 12:20～13:20 **担当教員** 館 深雪

English Lounge

English Lounge では、総合英語に関連するテーマを取り扱って学習サポートを行っています。自分のレベルにあったBook Report用の本の見つけ方やCALL学習の仕方など、授業中にはあまりきくことができない効果的な課題の取り組み方を紹介しています。また、TOEICの学習方法や、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションの組み立て方なども扱っています。予約は不要です。総合英語の学習に困ったらぜひ一度お越しください。

開催予定日 月曜・木曜 **場所** 図書館2階 **時間** 毎週月曜日・木曜日 12:40～13:40



英語コミュニケーショントレーニング

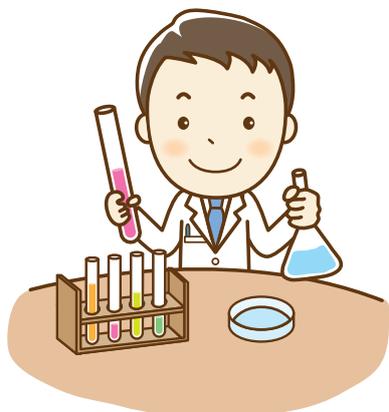
ネイティブスピーカーとの気軽なコミュニケーションによってリスニングやスピーキングを実践し、スキルを向上して自信をつけてください。

開催予定日 水曜 **場所** 図書館2階グループ学習室 (個人又は複数人対応) **時間** 13:00～19:00 (原則事前予約)

※詳細日程や事前予約は、学務課履修指導グループ(共通教育棟1号館1階)まで。



理系基礎教育



統一授業

茨城大学工学部では、微分積分や力学といった基礎科目に対してムラのない統一した授業を行っています。

苦手科目でも大丈夫

統一授業ではついて行けるか不安な学生も、別のカリキュラムによりきめ細かな授業を行うことで対応しています。

理系質問室

授業だけではどうしても理解できない学生のために、大学教育センターでは理系質問室を開設しています。

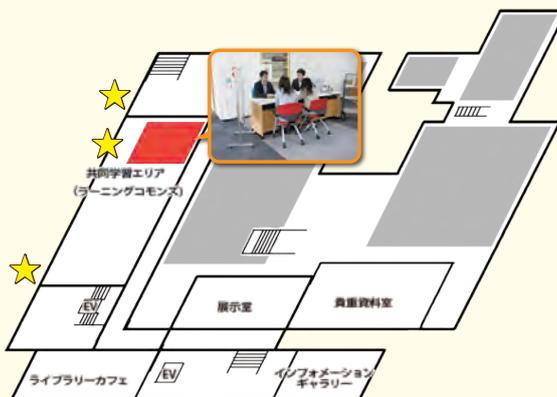
授業内容が解らなくなった時は
理系質問室へ行こう!

茨城大学
理系質問室
理系の質問相談 大歓迎!!!

オープンに対応できるように、図書館に開設!



★のぼりが目印!



大学の専任教員や先輩たちに気軽に質問!



工学部の学生はもちろん、他学部の学生も歓迎!

日時 12:00~13:00
(月・火・木に開室予定)

場所 図書館西棟1階共同学習エリア
(ラーニングcommons)

内容 数学・物理などの理系科目に関する質問を受け付けております。「授業で分からないところがある」、「演習問題の解き方が分からない」など困ったことがあれば理系質問室まで来てください。

後学期を迎えるにあたって

人との関わりを大切に

工学部マテリアル工学科4年 杉山 直希

後学期も始まり大学での生活にも慣れてきた頃だと思います。工学部生は2年生になると日立キャンパスに移ります。日立では専門科目が大部分を占め、教養科目が少ないので、1年生のうちに教養科目の単位を取っておくことをお勧めします。

また、大学生活では多くの経験を積むことが大切だと思っています。大学は人生の中で一番自由なことができる時です。しかし、自分から動かないとあっという間に時間が経ってしまいます。そのため自分のやりたいことを見つけて自発的に行動することが大切です。また、その行動の中でいろいろな人とかかわると思います。同級生だけではなく、先輩や後輩、社会人などともかかわる機会があり、そこで多くの経験を得ることができます。その経験は将来きっと自分の役に立つものだと思います。そのため、やり残すようなことがないように学生生活を送ってください。



研究課題原稿作成中

後悔のないように

農学部生物生産科学科4年 佐藤 祐椰

水戸での生活はいかがでしょうか。農学部生と工学部生にとっては1年しかない水戸での生活なので、サークル活動や友達作りなど、悔いの残らないように過ごしてほしいと思います。また、教養科目として他学部向けの講義を受けられるのは1年次生の特権とも言えるので、おもしろそうな講義があれば積極的に受けてみましょう。思わぬ発見があると思います。

農学部生が2年次から通う阿見キャンパスは、自然が多く落ち着いた雰囲気、農学を勉強するには最適な環境です。授業のほとんどを専門科目が占め、実験や実習もはいつてきて忙しくなると思います。実験レポートを上手く書けるように、レポートの書き方を学んでおくことをおすすめします。

最後に、大学時代に様々な人に会い、様々な経験をするのが将来の選択肢の幅を広げる重要な要素だと思います。少しでもおもしろそうなことがあれば、臆さずどんどん飛び込んでいきましょう！



作物学研究室学生の皆さん

編集 後記

今年の夏はリオでオリンピックが開催されました。目標に向かって取り組むことの面白さや大変さをあらためて思い知らされました。この大学生活で皆さんも何か夢中になれる事が見つかることを願っております。(こ)

● 今年の夏はオリンピックがありましたね。4年後の活躍を目指して、一生懸命努力する。このように考えると大学生活も似ている部分がありますね。4年後、● 社会人になってから活躍できるよう、頑● 張っていきましょう。(ふ)

● F氏とK氏に助けていただき、なんとか● 編集に貢献できました。今年の夏は押し● つぶされるような暑さでしたが、秋にな● り朝夕は肌寒いくらいになってしまし● た。体調管理に気をつけて大学生活を● 楽しんでください。(や)